

前回は四姑娘山の麓行われる質素な山神祭りをご紹介しましたが、今回は下流の丹巴に有るボン教の寺のお祭りを簡単にご紹介します。

丹巴北部に在るこの寺は1500年位の歴史を持ち、領主の庇護の下に長く戦禍を避けて来たため古い伝統を継承しています。元々私がこの寺に興味を持ったのはお祭りではなく、庫裏に伝承されていた女神の壁画です。この女神はヤクに乗り生命を与える薬瓶を左手に持っています。また本堂外壁には、ヤクに乗り生命を集める矢を右手に持った女神の壁画が伝承されています。

これらの女神の様式はシャンシュン(吐蕃以前に栄えた国でインド北部のラダックからチベット北部の高原地帯まで勢力が及んだ)で信奉されていた女神の一つに酷似しています。この話に首を突っ込むと長くなってしまいますので、この辺にして祭りの話に移します。

祭りは3日間で、初日は読経の下に地元の人達が集まって来て祭りの準備をします(写真下)。

2日目が祭りの核心部で各種の奉納舞踊が行われます。写真face0805はそのハイライトで生贄を神に捧げる儀式です。元来は生きた生贄を使いましたが、今は作り物の心臓に赤い塗料を封じて使います。

3日目は寺の住持が近在の人達に福を授けます(写真face0804)。

元来、ボン教の寺の住持はその土地の領主の親族が務める事が多く、この寺の住持もかつての領主の親族



face0805



face0804

で、現在でも地元の人達から厚い信望を集めており、体制が変わっても昔ながらの習慣風俗が保たれています。

場所は異なりますがボン教の寺の祭りのビデオが幾つか市販されていて、下記のサイトもその一つを紹介しています。ご興味があれば問合せ見て下さい。

kawachen homepage: <http://www.kawachen.org/>

なお古い伝統を持つボン教の寺の僧は、普段は実家で農耕をして行事がある時だけ寺に戻ります。そのため行事が無い時期に行くと門が閉まっていたり、留守番が居ても本堂に入れない事が多々ありますので注意が必要です。

